

青梅上成木ふれあいの森

活動地域内の植生と特定植物のモニタリング調査記録 II

1. 実施日 平成 27 年 5 月 21 日

2. 観察ルート 里仁会館～都道 202 号～常盤林道～大滝～イラクサの道～サエズリの谷～サエズリの道～ワープ新道～丸紅看板広場～ミズナラの道～スマレの道～リンドウ坂～アジサイの道～涸沢出合い（大滝作業道口）～常盤林道～都道 202 号～里仁会館

A. 里仁会館～常盤橋（都道 202 号沿い）

- ・クサノオウ（草の黄／草の王／瘡の王） ケシ科クサノオウ属で茎葉に黄色い汁を含む越年草 都道 202 号から常盤林道の所々で見られ、夏から秋にかけても咲いているのが見られる。
- ・ハルジオン（春紫苑） キク科ムカシヨモギ属で北米原産の 1～2 年草 山野から人家近くの道沿いなどで多く見られ、夏頃から咲きはじめるヒメジョオンによく似ているがハルジオンの茎は中空になっている。ヒメジョオンが咲く夏でも咲いているのが見られる。
- ・セリバヒエンソウ（芹葉飛燕草） キンポウゲ科ヒエンソウ属で中国原産の 1 年草 葉がセリのように細かく切れ込んでいるのでこの名がある。都道 202 号沿いの所々で見られる。
- ・ユキノシタ（雪ノ下） ユキノシタ科ユキノシタ属で常緑の多年草 雪が積ってもその下に緑の葉があるのでこの名がある。都道 202 号ばかりでなく常盤林道沿いでも随所で見られる。



クサノオウ



ハルジオン



セリバヒエンソウ



ユキノシタ

- ・里仁会館から常盤橋までの都道 202 号道路沿いにはこの季節、キク科で黄色い花のニガナ、ジシバリ、オオジシバリ、オニタビラコ、ヤブタビラコなどの花、そしてバラ科のクサイチゴ、モミジイチゴ、ニガイチゴ、ナワシロイチゴ、ヘビイチゴ、ヤブヘビイチゴなど、野イチゴの花や実が見られる。

B. 常盤橋～大滝（常盤林道沿い）

- ・ウラボミソウ（蟒蛇草） イラクサ科ウラボミソウ属で雌雄異株の多年草 あまり日が当たらない水辺近くの湿った場所に自生する。常盤林道沿いの暗い湿った場所で多く見られる。
- ・ムラサキサギゴケ（紫鷲苔） ゴマノハグサ科サギゴケ属の多年草 走出枝（ランナー）を四方に出して伸びる。常盤林道沿いの湿った場所で見られる。
- ・トキワハゼ（常磐爆） ゴマノハグサ科サギゴケ属の 1 年草 ムラサキサギゴケに似ているが走出枝を出さず、花期も春から秋にかけ長期間見られる。常盤林道沿いの所々で見られる。



ウワバミソウ



ムラサキサギゴケ



トキワハゼ

- **クジャクシダ (孔雀羊歯)** ホウライシダ科ホウライシダ属で夏緑性のシダ類 羽状複葉が孔雀に似ているのでこの名がある。常盤林道沿いで自生を確認。
- **サツキヒナノウスツボ (五月雛の白壺)** ゴマノハグサ科ゴマノハグサ属の多年草 花びらの先端が暗紫色をした個性的な花。日当たりのよい常盤林道沿いで自生を確認。
- **ミゾホオズキ (溝酸漿/溝鬼灯)** ゴマノハグサ科ミゾホオズキ属の多年草 花後の実がホオズキに似ているのでこの名がある。常盤林道沿いの地下水が湧き出ているような湿った場所で自生を確認。



クジャクシダの葉



サツキヒナノウスツボ



ミゾホオズキ

- **ハナニガナ (花苦菜)** キク科ニガナ属の多年草 シロバナニガナの変種でニガナによく似ているが、舌状花の花弁(花びら)がニガナは5~6枚に対しハナニガナは花弁が7~11枚と多い。常盤林道沿いでミゾホオズキが多く見られる近くで自生を確認。
- **シンミズヒキ (新水引)** タデ科タデ属の多年草 秋に花を付けるミズヒキより大形のタデ科の植物で、葉の表面に模様が無い。常盤林道沿いで自生を確認。
- **ウツギ (空木)** ユキノシタ科ウツギ属の落葉低木 ウノハナ (卵の花) の名前でも親しまれている初夏を代表する花で、枝の中心が中空なのでこの名がある。



ハナニガナ



シンミズヒキの葉



ウツギ

- **マルバウツギ (丸葉空木)** ユキノシタ科ウツギ属の落葉低木 葉が丸いウツギ。今年はウツギが少なくマルバウツギが圧倒的に多いように思われる。
- **ガクウツギ (額空木)** ユキノシタ科アジサイ属の落葉低木 ウツギの名があるがアジサイ属の植物で、常盤林道に入ると段々増えて目立つようになるが、活動エリア内の他の場所でも多く見られる。
- **コゴメウツギ (小米空木)** バラ科コゴメウツギ属の落葉低木 この花もウツギの名はあるがバラ科の植物で、小さな白い花を米粒に見立ててこの名がある。



マルバウツギ



ガクウツギ



コゴメウツギ

- **ツルカノコソウ (蔓鹿の子草)** オミナエシ科カノコソウ属で蔓性の多年草 花が鹿の子模様に似ているのでこの名がある。花はそろそろ終わり。
- **カントウマムシグサ (関東蝮草)** サトイモ科テンナンショウ属の多年草 常盤林道沿いをはじめ活動エリア内では仏炎苞 (茎の上部が筒状に伸びた部分) が緑色のアオマムシが多い。
- **サワギク (沢菊)** キク科キオン属の多年草 沢沿いの湿った場所に生えるのでこの名があり、別名ボロギク (襤褸菊)。常盤林道沿いをはじめ活動エリア内の随所で見られる。



ツルカノコソウ



カントウマムシグサ



サワギク

- **ヒロハコンロンソウ (広葉崑崙草)** アブラナ科タネツケバナ属の多年草 沢沿いの湿った場所に多く生える。常盤林道沿いの成木川の水辺の所々で見られる。
- **タネツケバナ (種漬花)** アブラナ科タネツケバナ属の2年草 田植えの準備に種もみを水に漬ける頃に花が咲くことからこの名がある。常盤林道沿いをはじめ活動エリア内の随所で見られる。
- **ツボ (ニョイ) スミレ (坪如意堇)** スミレ科スミレ属の多年草 唇弁の紫色の筋が目立つ個性的なスミレで、常盤林道沿いの所々で見られる。



ヒロハコンロンソウ



タネツケバナ



ツボ (ニョイ) スミレ

- ・常盤林道沿いで葉全体が十字形に見えることからこの名がある夏緑性のシダのジュウモンジシダ（オシダ科）の自生を確認。
- ・常盤林道沿いでタネツケバナと同じの仲間のジャンジン（アブラナ科）の自生を確認。
- ・成木浄水場近く、常盤橋を過ぎ常盤林道に入り、しばらく進んだ左手山側の岩場にイワタバコ（イワタバコ科）の自生を確認。今までこの地点でイワタバコは確認されていなかったが、湿潤な生育環境に変化したのが原因か、今後とも継続的に要観察。
- ・オカトラノオ（サクラソウ科）、ツリフネソウ（ツリフネソウ科）、ナンテンハギ（マメ科）、ミツバベンケイソウ（ベンケイソウ科）、ハンショウヅル（キンポウゲ科）、ツルニンジン（キキョウ科）、キバナアキギリ（シソ科）など、夏の季節以降に開花する植物がまだ葉の状態だが常盤林道沿いの所々で見られる。

C. 大滝～イラクサの道～サエズリの谷

- ・大滝から入ったイラクサの道の入口近く、右手の岩肌のイワタバコ（イワタバコ科）は前回の観察のときより自生数が増えているようで、左手谷側の岩肌にも沢山のイワタバコが見られる。今後とも継続的に要観察。
- ・イラクサの道の入口近く、右手の岩肌のイワタバコの少し先の右手山側の斜面で前回の観察で見つけたツルリンドウ（リンドウ科）を篠竹で囲いをする。
現在、蔓は全長 50cm 以上に伸び、途中 2ヶ所ほどから分枝しているのを確認。今後継続的に生育状態を要観察。
- ・ミヤママンネングサ（深山万年草）ベンケイソウ科キリンソウ属の多年草。メノマンネングサの高山型の変種とされる。イラクサの道の沢沿いに少し見られるが、温暖化や気候変動による植生環境の変化が原因か、例年より花数が少なく自生数も少ない。
- ・イラクサの道途中、三角岩のイワタバコは前回の観察でも感じられたが、周囲の環境変化で年々乾燥化が進んでいるのかやはり自生数が少ない。今後継続的に生育状態を要観察。
- ・マルミノヤマゴボウ（丸実の山牛蒡）ヤマゴボウ科 ヤマゴボウ属で全草有毒の多年草。サエズリの谷で数株の自生を確認したがまだ蕾状態。
- ・クワガタソウ（鋸形草）ゴマノハグサ科 クワガタソウ属の多年草。サエズリの谷で少しだけ咲いているのが確認されたが、この花も温暖化や気候変動による植生環境の変化が原因か、開花状態があまりよくなく、例年に比べ自生数も少ない。
- ・トチバニンジン（栃葉人参）ウコギ科トチバニンジン属で日本固有種の多年草。サエズリの谷のツリーハウス近くに2株ほど自生しているのを確認、篠竹で周囲を囲う。一株だけは蕾が付いており、夏には開花が期待される。今後とも継続的に要観察。



ミヤママンネングサ



マルミノヤマゴボウ



クワガタソウ



トチバニンジン

D. サエズリの道～ワープ新道～丸紅看板広場

- サエズリの道からスマレの道へ向かう途中、支沢の出合い付近の左手のイワタバコは今回も数株が確認されただけで、やはり環境変化で乾燥化が進んでいるのか自生数が年々減少しているように思われる。今後とも継続的に要観察。
- コアジサイ（小紫陽花）ユキノシタ科アジサイ属の落葉低木 両性花だけで装飾花がないアジサイで、別名シバアジサイ（柴紫陽花）。活動エリアの所々に自生しているが、蕾がぼつぼつ出はじめる。間伐により周囲の景観が明るくなり下草も出はじめているワープ新道から丸紅看板広場周辺にかけてコアジサイの幼木もたくさん見られる。
- ニシキゴロモ（錦衣）シソ科キランソウ属でジュウニヒトエに似た多年草 ワープ新道の所々と丸紅看板広場に自生しているのを確認。
- フタリシズカ（二人静）センリョウ科 センリョウ属の多年草 ヒトリシズカに代わって活動エリアの各所で咲きはじめる。花穂は普通2本でこの名があるが3本以上のものも多く見られ、ワープ新道で花穂が5本のフタリシズカを見つける。
- この季節、花はもう終わっていたが、丸紅看板広場周辺のヒノキの植林帯にチゴユリ（ユリ科）のたくさん自生を確認。



コアジサイの蕾



ニシキゴロモ



フタリシズカ



花穂が5本のフタリシズカ

E. ミズナラの道～スマレの道～リンドウ坂～アジサイの道～瀬沢出合い(大滝作業道口)

- シソバタツナミソウ（紫蘇葉立浪草）シソ科タツナミソウ属の多年草 丸紅看板広場からミズナラの道に下りる途中でタツナミソウの仲間を見つけたが、花や葉の付き方の特徴からシソバタツナミソウと思われる。変異が多く同定が難しい植物。
- タガネソウ（塹草）カヤツリグサ科スゲ属で単子葉植物の多年草 普通のスゲ属のように葉が細長くなく、幅広い葉の形を塹（タガネ）に見立ててこの名がある。ミズナラの道に下りる途中、実は付いていないがミズナラの道に生えている葉を見かける。
- ミズナラの道に下りる途中で葉裏が紫色で花後の葉のフモトスマレ（スマレ科）の自生を確認。
- ワープ新道と丸紅看板広場で見られたシソ科のニシキゴロモが、ミズナラの道とスマレの道（日向）との合流点近くにも自生しているのを確認。
- ミズナラの道からスマレの道（日向）に入った辺りで、前回見つけることができなかったセンブリ（リンドウ科）の新芽をいくつか発見、踏みつけられそうな場所に生えていた1株を上段の斜面に移植し、近くにあった枝切れで暫定的に囲いをする。今後は更に自生数が増えるかも。今後とも継続して要観察。
- リンドウ坂の東京都環境保全看板近くで前回4月の観察のとき自生数を数え、周囲を囲ったツルリンドウの株数を今回もカウントしたところ17株から20株に増えていた。今後も継続的に要観察。
- イチャクソウ（一薬草）イチャクソウ科イチャクソウ属の多年草 前回4月の観察でリンドウ坂の東京都環境保全看板近くのツルリンドウより少し下で見つけたイチャクソウの近くにもう1株の自生を確認。前回見つけた一株の茎先には蕾が付いていた。今後とも継続的に要観察。



シソバツツナミソウ



タガネソウ



イチヤクソウ

F. 涸沢出合い（大滝作業道口）～大滝（常盤林道沿い）

- 涸沢出合い大滝間の駐車スペース近く、山側岩崖のイワタバコは前回4月に観察したときと変わりなく、高所は乾燥化で自生数が少なく道路面近くの低所には多く見られ、順調に生育していると思われるが今後とも継続的に要観察。今回、数年前のペイントでのモニタリング跡が確認された。

3. 総括

- 4月中旬ごろまでは寒の戻りなど寒暖差の激しい日が続く異常天候で、草花の生育も遅れているように思われたが、それ以後は降雨も少なく急激に気温が上昇し、特に5月に入ってから春を乗り越していき夏になったような暑い日が続いたため、開花時期や開花状態が例年とはかなり違うように感じられる。
- 大滝近くのイラクサの道と都保全地域看板エリアのツルリンドウおよび、今回はじめて自生が確認されたスマレの道のセンブリのモニタリングは今後とも生育状態を継続して要観察。
- 常盤林道沿いや大滝周辺など各所にあるイワタバコはモニタリングの方法を現在検討中、開花前までに方法、場所などを決め、自生数や生育状態を要観察。

編集 青梅上成木ふれあいの森 しぜん部